



令和時代の“学校を核とした地域づくり”

この講座では魅力ある教育による地域創生に従事する岩本悠氏と望ましい教育制度のあり方をデザインする荒井英治郎氏との対談等から、これからの学校と地域が連携・協働した取組や地域資源を生かした教育活動を進める上でのポイントについて考える機会として講座を設定しました。

講義では、学校を核として地域がつながり、大人と子どもが一緒になって学び合う土台作りのお話をいただき、対談では講義を踏まえ、地域や学校がどうすべきかを考えるきっかけとなりました。
(受講者 75名)



〈研修内容〉

- 講義 演題 「地域との協働による魅力ある学校づくり」
講師 一般財団法人 地域・教育魅力化プラットフォーム
代表理事 岩本 悠 氏
- 対談 演題 「未来志向で考えるこれからの“学校を核とした地域づくり”」
講師 一般財団法人 地域・教育魅力化プラットフォーム
代表理事 岩本 悠 氏
信州大学 教職支援センター
准教授 荒井 英治郎 氏



受講者アンケートから

- 岩本先生の実践事例を通して、地域と学校をつなぐためのヒントをいただけた気がします。また、どのように協働体制を整えていったのか、参考になりました。(学校教職員)
- 実質性、多様性を持ち込むことで活性化をはかるという見方が新鮮でした。(学校教職員)
- 地域と学校との関わりは多くの人に関わるからこそ複雑で、ご講義の最後にお話があったように、一言で協働というけれど、そこに至るのにはとてもむずかしいという思いを持っています。学校の現状を考えたときに、地域との協働とははたしてどのような形がよいのか悩む状態です。(諸団体)
- 精力的な岩本先生、それを受講者にわかりやすくまとめていただいた荒井先生のおかげで、「地域学校」について現場で生かす方向性を自分の中で少し作ることができました。主体的な大人の相似形としての子どもたち、となるような自分でありたいと思いました。ありがとうございました。

(市町村職員)